10年後をリードする　未来企業　96

「困っている人」「正直に生きているのに理不尽な思いをしている人」の心に寄り添う社労士を目指す

兵庫県西脇市を拠点に兵庫県全域で社会保険労務士業務を展開している「はみんぐふる社会保険労務士法人みやこ事務所」。2001年に開業し19年には法人化をはたすなど、順調に事業を拡大させている。代表社員の藤原都子氏に、㈱ブレインマークスの西野裕菜氏がこれからの夢と思いを聞いた。

藤原都子
ふじわら・みやこ

はみんぐふる社会保険労務士法人みやこ事務所 代表社員

2001年はみんぐふる社会保険労務士法人みやこ事務所開業。経営者視点で「安全管理」をいかに意識し、企業にそれをどう浸透させていくかといったことを重視した経営サポートを展開している。また、近年増加しているメンタルヘルス対策と予防、自律型人材の育成の支援などにも力を入れている。

西野裕菜・ブレインマークスビジネスコンサルタント　まずは社会保険労務士になろうと思われた経緯から伺いたいと思います。

藤原都子・はみんぐふる社会保険労務士法人みやこ事務所代表社員　もともと両親が事業を営んでいたので、子どもの頃から漠然と起業したいという思いを持っていました。そんな折、父がはやくに亡くなってしまったことで私も社会的弱者の立場を経験し、しだいに「正直者が馬鹿をみない社会にしたい」という思いを募らせていったのです。そして、20代のときにお世話になった弁護士の先生が個人の悩みにきめ細やかに対応していたことに感銘を受け、「法律を基盤に世の中に役立ちたい」と決意してこの世界に飛び込みました。

西野　顧問先はどのように開拓していったのですか。

藤原　ただ待っていてもはじまらないので、開業当初は同業者や同期の仲間のマネをし、世の中に役立ちたい一心で飛び込み営業を重ねたのですが、結果は惨敗に終わってしまいました。若くて未熟だったこともあり、ときには営業先から屈辱的な言葉を投げかけれることもあり、悔しい思いをしました。しかし、それでもどうにか仕事をしていかなければならなかったので、ほかの士業の先生や先輩の社労士から仕事を紹介してもらい、それを足がかりとしてご縁が広がり、少しずつ顧問先が増えていきました。振り返ってみると、本当に地道な歩みだったように思います。

西野　現在は10人以上の社員を抱えるまでになっていますね。

藤原　お客さまのご要望に応えつづけていくうちに、社員数も自然と増えていきました。社労士業務の多くは依然としてマンパワーによるところが大きいので、自然とそうなったのです。

西野　その後、組織力を高める方向にシフトしていったそうですが、何か転機はあったのでしょうか。

藤原　私が半年ほど寝たきりになり、死に直面してしまったことが転機になりました。私はもともと仕事を自分ひとりで抱え込む傾向が強かったのですが、そのときにひとりの職員が一生懸命、事務所を切り盛りしてくれたおかげで窮地を乗り切ることができ、顧問先からの信頼を失わずにすんだのです。それで「信頼できる社員がいれば、私に何かあっても事業をつづけていくことができる」と実感し、事務所の組織力を強化していこうと考えるようになったのです。

西野　具体的にどのようなことに取り組んだのですか。

藤原　それまでの私は社員をあまり信用していなかったこともあり、新しい人材を採用しても相互理解がなかなか深まらず、すぐに辞めてしまうといったことがありました。そこで、思い切って社員に仕事を任せ、社員と顧客の接点を増やす方針に転換したのです。すると、社員はそれまで以上に責任感を持って業務に取り組むようになり、自然と組織力も強化されていきました。

西野　社員とはどのような思いを共有しているのでしょうか。

藤原　私は「困っている人、正直に生きているのに理不尽な思いをしている人の役に立ちたい」という思いでこの仕事をつづけています。ですから、まずはこの思いをシッカリと社員に共有するように心がけました。また、その際には御社（㈱ブレインマークス）の安東邦彦社長のアドバイスを取り入れ、まずは〝片腕〟となってもらえる社員に対して集中的に思いを伝えるところからはじめました。

西野　そういった思いをさらに広く伝えるために、現在はどのようなことに注力していますか。

藤原　あらためて自分自身と向き合い、事務所の経営理念についてまとめました。そして、導き出したのが「企業と人をハートフルサポートの精神で共に未来を語り合える会社づくりをします」「『ありがとう』で人と人がつながる社会を創造します」「『個』を尊重し一人ひとりがキラキラ輝く人生を送ります」といった経営理念です。今後はさらにこれらの要素を社員や顧問先に発信しながら業務に打ち込んでいきたいと思っています。

西野　ところで、「はみんぐふる」という法人名にはどのような思いが込められているのでしょうか。

藤原　「はちどり（ハミングバード）」と「ハートフル」を合わせた造語で「今、自身にできることを必死にやりきる」という想いをあらわしています。職員が考案してくれた法人名なのですが、私もとても気に入っています。

西野　今後の展望についてお聞かせください。

藤原　社労士業務はＡＩ（人工知能）化がさらにすすみ、従来の手続業務などは急速に減少していくと思われます。しかし「人の心にフォーカスしつづける」という志を忘れなければ、外部環境がどのように変化しても、社員とともに乗り越えられると確信しています。具体的には労使関係を対立構図として捉えるのではなく、理念を共有すべき間柄として捉えることで、顧問先の組織体制や人事労務環境の健全化に努めていきたいと考えています。と同時に、そういった業務を通して、働く喜びに満ちた雇用者をひとりでも多く増やしていきたいですね。

西野　引きつづきその熱い想いを胸に事業を展開していってください。

はみんぐふる社会保険労務士法人みやこ事務所のエントランス

集合写真

打ち合わせ風景

西野裕菜
にしの・ゆうな

株式会社ブレインマークス ビジネスコンサルタント

2018年にブレインマークス入社。会員サービス運用やCRMシステムの運用・改善、企業文化づくりなど多岐にわたる業務を経験。物怖じしないチャレンジ精神ときめ細かな気遣いを武器に、顧客との関係構築に従事。現在はニーズを最先端で受け取る職務内容を生かし、サービス業務改善、満足度向上に力を注いでいる。

10年後のためのアドバイス！

藤原代表は「経営型社労士」として、社員が個々の能力を最大限に発揮できる職場環境づくりに注力しています。そして「人」にフォーカスしながら経営者を取り巻くさまざまな問題や悩みにアプローチし、労務コンサルティングをはじめ、社員研修や人事面の包括的な支援を展開しており、顧問先との定期的なミーティングやセミナーにも定評があります。今後ともこうした手法を強みとして、顧客基盤とサポート範囲を拡大していってほしいと思います。